令和5年度　学校評価

宮崎県立飯野高等学校

評価指標	評価欄	評価内容	評価基準
	自己評価	「評価項目」①の達成度	75%以上達成…A、50～74%程度達成…B、20～49%程度達成……C　20%未満達成……D
	全校自己評価	「自己評価」②のB以上の割合	9割以上……A、7割以上……B、5割以上……C、5割未満……D
	学校関係者評価	「全校自己評価」③、「成果と課題及び改善策」④の適切度	適切である……A、ほぼ適切である……B、あまり適切でない……C、不適切である……D

	評　価　項　目　①	自己評価②(%) 職員による評価A～Dの割合				全校自己評価③	成果と課題及び改善策　④	学校関係者評価	意見等
		A	B	C	D				
学力向上	学力を身に付けさせるための教育課程の編成を行うとともに、学校、学級経営の目標を明確にし、わかる授業、学ぶ力や学ぶ姿勢を育む授業、探究的活動をとおして、魅力ある学校づくりを推進する。	44	53	3	0	A	国語科が県の指定を受けて、2つのテーマ「新時代に対応した生徒の能力育成に繋げる、ICTを活用した授業」「新時代に対応した生徒の能力育成に繋げる、教科横断的または探究的観点を取り入れた授業」についてそれぞれ授業公開を行った際に、同様のテーマで各教科毎に職員研修を行った。ICTの活用については、職員間に技量の差があり全職員が有用な活用が出来る様になるまでには時間がかかるかと思われるが、効果的な活用ができている職員にその方法を積極的に公開してもらい、少しでも生徒の学習意欲が高まり、進路実現に繋がるようにしていく。また、教科横断的な取り組みについては、教科をシャッフルして様々な可能性について協議した。特定の教科に興味を示さない生徒についても、他教科と繋がることで視点を広げることが出来る様になり、取り組みやすくなることが期待できる。観点別評価については「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、各教科とも一定の基準が定まってきており、極端に偏った評価がなくなり適正な評価ができている。	A	ICTの活用や教科横断的な視点を取り入れた授業についての研究、教員の資質向上の取り組みを続けて欲しい。普段の授業や研究授業を公開するなど、授業を参観する機会を作って欲しい。
自立した人間の育成	自立した人間に育てるために、『凜姿』を中心にした礼儀マナーの徹底を図り、基本的な生活習慣の確立をめざすとともに、生徒の自治活動を支援し、学校行事等の自主的な運営を推進する。	24	59	18	0	B	（成果と課題） 生徒会活動の自治活動を全面的に採り入れることを目標において、昨年度よりさらに生徒が主体となった実行委員会の組織が行事等で運営企画し、成功を収めることができた。「制服・校則の見直し」の話し合いでは、生徒会・代議委員・風紀委員会を中心に活動・協議ができた。 （改善策） 全職員で今一度、時間厳守や礼儀・マナー指導等を統一して指導できるような体制づくりに努めていきたい。来年度は、学校行事の一部、時期等が変化する部分もあるため、早めの対策を行い、一部の職員や生徒に負担がかからないような組織づくりに努めてまいりたい。	A	校則の見直しなど生徒の意見を取り入れ進めていって欲しい。保護者の負担軽減を図って欲しい。
	教育相談、特別支援教育の充実を図り、生徒の学校生活を支援する。	71	23	3	3	A	<成果と課題>　いじめアンケートの実施やいじめ・不登校委員会での情報共有や協議で、生徒の悩み等を相談できる雰囲気を作ることができた。特別支援に関しては、通級の授業において、生徒の成長が見られた。また，通級対象者以外の困り感のある生徒にも、定期面談を行っている。課題として、情報共有はできたものの、具体的な手立てが取れずにいたことである。 <改善策>　いじめ・不登校委員会で、具体的な手立て等まで協議していきたい。生徒が安心・安全に学校生活を過ごすことができるよう相談室・保健室や他の先生方との連携を行い、情報共有をしっかりと行いたい。	A	通級の取り組みや、個別の生徒指導について一人一人に寄り添った指導をこれからも行って欲しい。
進路保障	生徒の自己実現のために、生徒が将来の目標や夢に向かって、地域活動等を中心としたキャリア教育を推進し、進路指導の充実を図る。	50	44	6	0	A	【成果と課題】コロナ前のように地域における探究活動を展開することができ、自分自身のキャリアを考える取り組みにつながるような取り組みがいくつも見られた。また、国内外への研修等にも約60名が自発的に参加し越境による学びにより視野を広げている。 課題としては、全学科・コースの特徴を活かした連携する取り組みがないため次年度はそこに力を入れていきたい。 【改善策】学科・コースの横断的なプロジェクトなど今後につながるロールモデルをつくる。	A	グローカル成果発表会は素晴らしかった。地域の方など多くの方に見てもらい飯野高校の取り組みや生徒の良さを伝えたい。
	豊かな教養を醸成するためのICTを活用したオンライン講座や読書活動を推進する。	27	70	3	0	A	【成果と課題】朝読書を通して読書を行うことやビブリオバトルを通して読書への意識は着実に高まっている。自主的に朝読書に取り組める雰囲気をつくっていきたい。またオンラインを活用した講師による講座も様々な場面で活用できた。 【改善策】朝読書の取り組みに対する定期的な振り返り（生徒・職員ともに）などを行い取り組みの意義を確認する。	B	読書活動の取り組みを引き続き行って欲しい。読書については高校だけの課題ではないので小中高でどのような生徒を育てたいかを共通して持ち、取り組むと良い。
心身の健康・安全	豊かな学校生活を送るために、心身の健康増進に努めるとともに、人権意識を高めるための教育活動を推進する。	39	58	3	0	A	【成果】コロナウィルス感染症が5類に移行したが、自己管理しやすいよう手指消毒液の設置と換気は引き続き行った。また、行事ごとに検温及び健康観察を重点的に行い感染症等予防に努めた。 【課題と改善策】生活に乱れから来る体調不良が多かったので、担任と連携をとり保護者への助言指導や情報共有を行っていきたい。 <成果と課題>年3回、各学年で人権教育LHRを実施した。生徒同士で協議させる場面も多く取り入れた。生徒の関心も高く、人権意識を高めることができた。また、人権便りも学期に2回発行した。今年度は、職員研修で同和問題に関する研修を行った。 <改善策>職員が、生徒の人権感覚を高めることができるような指導を常に心がける。学校全体での人権意識の雰囲気を育てていくことができるよう人権便りをSHRで配布する際、時間をかけて丁寧に生徒に人権について伝えていく。	A	コロナの感染が落ち着かない中、学校行事が行えたことは良かった。生徒自身の健康管理と、感染に対する意識にはまだ十分とは言いがたい。
	校内外の環境整備に努め、生徒の自立した清掃活動等を推進する。	26	56	18	0	B	【成果】年度初めに清掃分担及び清掃手順表の作成を職員・生徒に依頼し各々が責任を持って取り組むよう促したことで、10分の清掃時間ではあるが効率的に清掃活動が行えた。また、トイレの手洗い場を衛生的に保てるように台拭きを置き使用マナーのポスターを掲示した。 【課題と改善策】生徒減により、区域を補充するだけの人員が足りず、不行き届きな場所がある。清掃割りを更に工夫していきたい。また、生徒が自発的に清掃に取り組むように工夫・改善が必要である。	A	清掃については、職員や生徒の努力では限界もあるのではないか。地域の力を借りるなど大きな変化も必要である。
地域社会や保護者との連携	コミュニティー・スクールの実施に伴い、地域、行政等との連携を深め、学校運営協議委員と協働して学校運営に当たり、教育の充実と健全な人材育成を図り、地域に開かれた学校づくりを推進する。	45	52	3	0	A	コミュニティー・スクールの実施も5年目を迎え、本年度も夏休みに防災体験活動を行った。防災士の資格取得者および取得希望者を中心に、昨年度より近隣の小中学校からも参加者を募り、本校生の当日の協力者とを中心に行っている。本年度は1泊2日の日程で計画し、学校での寝泊まりを体感する計画であったが、宿泊を希望する方がいなかったので、本校生11名と職員1名が宿泊した。能登半島の地震に伴う避難生活の様子を見ると、事前の準備の必要性を感じ、地域とも連動しながら計画すべきだと感じる。 今年度初めての試みとしては、本校生徒と学校運営協議会の委員との「未来カフェ」を実施したことである。本校が現在検討を重ねている制服について、委員と生徒が意見を交わした。セーターの利用法については委員からも様々な質問や意見が出され、今後の審議に活かされると感じた。次年度以降も委員と生徒の協議の場を設け、生徒の生の声を取り入れながら、協議会を運用していけるように工夫していきたい。 また、本校は「地域貢献活動」「地域探究活動」を通して、郊外に出て活動する機会が多い。地域の方との協働が今以上にスムーズになるよう、協議会において検討を重ねていきたい。	A	防災の取り組みは素晴らしいが参加が少ない等の課題がある。ぜひ続けて少しずつ良いものにしていって欲しい。 語り合う場を作る事が大切である。
教育諸条件の整備、安全・安心な学校づくり	生徒の防災意識の涵養を図るため、学校内外における防災計画の整備や危機管理体制を充実させるとともに、地域における学校の役割を十分果たせるよう地域とともにある学校づくりを推進する。	30	70	0	0	A	校舎の老朽化に伴い、昨年度より校舎毎に外壁の点検及び補修工事を行った。また、定期的に行われる安全点検において、環境保健部と連携し、生徒の安全を第一に優先度を考慮し、施設の修繕を行った。予算の都合上、未改修箇所もあるため、今後、予算を確保し改修を行っていきたい。	A	校舎も30年を超え見えない危険を予測しながら安全第一で改修等を進めて欲しい。
小中高一貫教育	小中高一貫教育や中高連携の取組を充実させることで、地域への愛着や誇りを育み、また地域社会に貢献・支援する活動をとおして、地域の発展のみならず、地域発展の核となる学校づくりを推進する。	74	21	6	0	A	小中高一貫教育は年間計画通り実施することができた。小中高の生徒が交流する場面では参加生徒の生き生きとした活動が見られた。高校の探究活動を活かした防災キャンプやLGBTの取り組みを発展させた小学校での参観授業を行う等の取り組みもあった。ミシン教室や弁当作り講習会など生活文化科の学習と設備を活かした取り組みも成功した。地域の子どもたちを小中高と積み上げ継続していく大切な取り組みであることを意識して次年度も計画していきたい。連携の難しさ等が課題として挙がっている。次年度に向け代表者会を開き検討中である。実施内容、日程、組織について再検討しよりよい実践、持続を目指していきたい。また、活動状況を地域へ知ってもらうための広報の準備も進めている。	A	小中高の取り組みはすばらしい。えびの市内の小中学校へ広げて欲しい。
普通科改革推進事業 教職員の働き方改革	新しい時代の高等学校教育の在り方を追求し、それを実現する教職員の育成を図る職場環境を目指すとともに、教職員の働き方に関わる視点も併せ持って学校づくりを推進する。	29	59	12	0	B	令和4年度より「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革推進事業）」に取り組んでいる。今年度はコーディネーターの配置と校内役割分担が一つの課題であったが、コーディネーターは生徒の実践における調整や実務の他、日常の探究活動のサポート、個別の相談対応など多くの役割を果たしてを果たしてくれた。校内の体制の整備が次の課題である。また普通科改革については学校連絡協議会、えびの市内保護者等から飯野高校に求める事等多くのご意見をいただくことができた。全職員での研修も時間を確保した上で行うことができ、内容も充実したものとなった。働き方改革の視点を常に持ち、探究活動のあり方を様々な視点で見直していきたい。国内外のプログラムへの参加も活発になっている。探究の学びが生徒一人一人の成長につながるよう、全職員で連携して指導できる体制作りを行っていきたい。	A	全国枠募集に関する効果を評価しても良いのではないか。普通科改革の研究を進めると同時に、 働き方改革も進めて欲しい。